

7月1日 1918年子供向け文芸雑誌『赤い鳥』が創刊されました。

1984年それを記念して日本童謡協会が7月1日を『童謡の日』と制定しました。

「赤い鳥」は鈴木三重吉が創刊しましたが、三重吉は当時の子供のための唱歌や説話があまりにも教訓めいて低俗だったことに義憤を感じていました。そこで、文壇の著名作家に執筆を依頼し、子供のための文芸誌を発刊したのでした。

芥川龍之介「蜘蛛の糸」、有島武郎「一房の葡萄」などの童話、北原白秋らの童謡、小山内薫、久保田万太郎らの児童劇など、多くの名著が「赤い鳥」から生まれました。

「赤い鳥」はその後18年間196冊が刊行されました。鈴木三重吉が亡くなったことで、廃刊になっています。一流の文学者による作品が児童文学のレベルを高め、また次代をになう児童文学作家の発掘にもなっています。

日本童謡協会による「童謡の日」の宣言の中に「芸術として真価ある純麗な童話と童謡を創造する最初の運動」として発刊された雑誌『赤い鳥』が喚起して以来続く、世界に殆どその例を見ない優れた子どもたちの文化所産であります」とあります。

外国にも童謡は存在しますが、おそらく日本ほど豊かで歴史ある童謡を持っている国はないのでしょうか。故郷を追われている子供、紛争で恐怖の中に生きている子供、貧しくて学校に行けない子供、世界には児童文学や童謡とは無関係に生きている子供も大勢います。

日本の子供たち、そしてかつて子供だった大人たち、心豊かに育っているのでしょうか。子供のときによく歌った歌を再び口ずさんでみたいと思います。ちょっと元気がでませんかね。

7月2日 たわしの日

1915年西尾商店（現在の亀の子束子西尾商店）が「亀の子束子」の特許を取得したことにちなみます。

亀の子束子西尾商店のホームページを見れば、1907年初代社長西尾正左衛門が東京本郷真砂町にて棕櫚製の亀の子束子を発明しました。その後、パーム椰子を原材料として採用して発売しました。

1908年に実用新案を取得、「亀の子束子」・「亀のマーク」の商標権も登録しました。1915年には実用新案から特許に格上げ取得しています。

西尾正左衛門は棕櫚の靴拭きマットからヒントを得て、女性の使いやすい丸い形のたわしを完成させました。靴拭きマットは、棕櫚の毛がちびたり、折れたりする欠点がありましたが、手に持って使うたわしは、汚れを落とすにはちょうどよい硬さでした。

亀の子たわしは明治、大正、昭和、平成と1世紀以上同じ名前、同じ形、同じ品質、変わらぬ人気で現在でも年間400万個の製造、20ヶ国への輸出をし、ロングセラー商品となり、100年にわたって、亀の子束子西尾商店は亀の子たわし一筋に経営しています。

しゃれたナイロンたわしや金たわしも、いろいろあるけれど、ウチにも亀の子たわしがあります！ナイロンたわしでも、金たわしでも、ダメな汚れってあるものです。そして、ズックを洗うときは、亀の子に柄の付いたヤツが定番！

思っていたよりも、亀の子たわしって新しいものだと感じました。それに、特許や商標登録がされているというのも意外でした。そして、たわし一筋の会社があるということも……。百貨店で実演販売しているというのもビックリ。

古いようで新しく、素朴なようでモダン、ダサイ感じなのに、ちゃっかりしている……。亀の子たわし、侮るべからず！

7月3日

ソフトクリームの日

1951年のこの日、明治神宮外苑で行われた米軍主催のアメリカ独立記念日を祝うカーニバルでソフトクリームが販売され、初めて一般の日本人がソフトクリームを食べました。それにちなんで、1990年日本ソフトクリーム協議会が「ソフトクリームの日」を制定しました。

ソフトクリームと言えば、コーンにうずたかくねじりだした、滑らかな舌触りのアイスクリーム。その秘密は、ソフトクリームフリーザーによって、アイスクリームに空気を含ませて凍結し、攪拌します。温度は -5°C ～ -7°C 程度で、アイスクリームの -25 ～ -30°C とは異なっています。この温度差が、ソフトクリームとアイスクリームの違いにもなっています。

ソフトクリームの入れ物といえば、コーン。コーンと言ってもとうもろこしとは関係ありません。円錐を意味する CONE で、道路工事現場においてあるコーンと同じ意味ですね。

夏の間は、どうしてもブラウンの売り上げが落ちてしまいますので、次のお店では、ソフトクリームも扱おうかどうしようか……。まだ悩み中です。

7月4日 1951年第1回プロ野球オールスターゲームが開催されました。

戦後、すぐに復活したプロ野球でしたが当時は1リーグ制でした。2リーグ制になったのは1949年11月からです。1949年秋のオールスター戦も東西対抗で行われました。

1951年からは、アメリカメジャーリーグにならい、オールスター戦は7月に開催することになりました。

第1回の出場メンバーは、金田正一、別所毅彦、川上哲治、別当薫、千葉繁、青田昇、……。って、これ分かる人、相当な年齢だね。

川上の赤バット、大下の青バットなんて言葉もあったし、それぞれの選手に、特徴のあるニックネームがついています。当時の人気の高さが伺えます。

娯楽が少なかったせいもありますが、みんなが熱狂したに違いありませんね。

7月5日 江戸切子の日

江戸時代、ビードロやギヤマンと呼ばれたガラスは壊れやすく繊細で、しかも美しいと言うことで美人の別称であったとか。そんなガラス細工の江戸切子は、1834年、加賀屋久兵衛が江戸大伝馬町で金剛砂を用いてガラスを彫刻したのが始まりです。

ビードロを商っていた加賀屋の引き札(チラシ)には、オランダとの貿易によって輸入されたカットグラスや和物・唐物のガラス製品が入り混じって描かれています。久兵衛の切子にはオランダのデザインに影響されたものがたくさんあります

また、幕末には薩摩でガラス細工が盛んに作られ、薩摩切子と呼ばれ、江戸切子と並び評されます。

ところで、ガラスの主な原料は珪石で、これに鉛を混ぜます。鉛を入れるのは溶ける温度が低くなり作業がしやすくなるからです。鉛を入れると壊れやすいのですが、光の屈折率が高くなって、プリズムのように虹色に光るのです。幾筋も切れ目を入れることで、さまざまな光の屈折が生まれ、切子の何ともいえない美しさを生むのです。

江戸切子は2002年1月29日国指定伝統的工芸品に認定されました。江戸切子の文様は、矢来・菊・麻の葉模様など身近な和の文様を繊細に切子で施しているのが特徴といわれています。

これからの時期、涼しげな切子の杯で冷酒など頂けば風流この上ないですね。

7月6日 零戦の日

1939年 零式艦上戦闘機(ゼロ戦)の試作機の試験飛行が始まったことに由来します。正式には零式(れいしき)艦上戦闘機といい零戦(れいせん)とも略称される旧日本海軍の戦闘機のこと、太平洋戦争初期には世界最高水準といわれました。特に格闘性能にすぐれており米英パイロットから「ゼロファイター」の名で恐れられたそうです。

1937年から三菱重工業が堀越二郎を設計主任として開発を行い、1939年に初飛行、40年(皇紀2600年)に採用されました。通常、軍用機は皇紀の末尾の数字を取って呼ばれるのでレイ式と命名されたのです。

しかし、戦末期には胴体下に250kg爆弾を装着し特攻機として使われました。そのせいか、零戦は美化されすぎていないのかもしれませんが……。

零戦といえば、7月20日公開の宮崎駿監督作品『風立ちぬ』では、設計者の堀越二郎が主人公のモデルになっ

ているそうですね。堀越二郎氏は航空技術者として非常に優秀な人で、美しく性能のよい飛行機を作ることだけに熱中したそうです。

1945年6月、7月と言えば、敗戦が色濃くなった時期ですが、その頃でさえ戦闘機「烈風」の開発で、激しく上層部とやりとりし、海軍の方針に反抗してまでエンジンを変更したそうです。当時としては、考えられないことです。

堀越が開発した「ねじり下げ」「沈頭鉤」などの技術は現在でも全世界のほとんどの航空機で利用されているそうです。宮崎映画でどのように描かれるのか、とても楽しみです。

7月7日 1919年カルピスが発売されました。

カルピスの創業者三島海雲は、内モンゴルで酸乳を知り、それが健康に効果的であったことに感銘を受け、日本で乳酸菌を用いた食品を作って人々の健康に貢献したいと考えました。

酸乳を発酵させて砂糖を加えたクリーム「醍醐味」その後、「醍醐味」の製造過程であまった脱脂乳を乳酸菌で発酵させた食品「醍醐素」を発売しましたが、売れ行きは今ひとつでした。

ある日、初代工場長となる片岡吉蔵（後に常務取締役）が、ふとした思い付きから「醍醐素」に砂糖を混ぜて1〜2日放置したところ、1本の試験管の中に大変美味しい味ができあがりしました。偶然の出来事だったようです。

当時の日本人に不足していたカルシウムを添加し、美味しくて体によい飲み物が出来上がりました。

カルピスの名付け親は山田耕筰。発売当初から昭和初期にかけて広告デザインは、杉浦非水（日本画家、デザイナー）、岡本一平（漫画家）、武井武雄（童画家、版画家）、西条八十（詩人）、東郷青児（洋画家）などの錚々たる面々が担当したことでカルピスはおしゃれでモダンな飲み物としての地位を確立しました。

かつてのカルピスの図案はドイツ人デザイナーのオットー・デュンケルスビューラーによるもので「パナマ帽を被った黒人男性がストローでグラスのカルピスを飲んでいる様子」をデザインしています。1924年に新聞広告に掲載されてから1990年差別思想につながるということで使用を中止するまで使われました。

おっちゃんの子供の頃は、今みたいに数多くの清涼飲料水があったわけではないから、夏と言えば「カルピス」でした。少し大きくなったら、ファンタやコカコーラも飲みましたが、夏になると新聞にカルピスの全面広告が出て、夏の飲み物と言えばカルピスと言うほどポピュラーな飲み物でした。

カルピスは「初恋の味」なんてキャッチコピーもあったんですよね……。

7月8日 1921年イラク・バスラで世界最高気温 58.8℃を記録しました。

毎日、暑いのに、58.8℃って……どんなの？

バスラは砂漠気候で、5～10月は雨がほとんど降らず、6～8月は最高気温がだいたい38℃以上になるようです。日本では湿度が高いので、日陰でも涼しくないが、こういうところはどうなのでしょう？

家の中は、少しは涼しいのでしょうか。砂漠の人々と言えば、直射日光や砂を避けるために丈の長い民族衣装とターバン姿を想像します。

日本で最高気温の記録は2007年8月16日 埼玉県熊谷市と岐阜県多治見市の40.9℃。岡山では1994年8月7日 39.3度が最高気温の記録です。

これからが、夏本番で暑い日が続きます。どうぞ、お体には気をつけて！

7月9日 1955年ラッセル・アインシュタイン宣言が発表されました。

ラッセル・アインシュタイン宣言とは、イギリスの哲学者・バートランド・ラッセルと、アメリカの物理学者・アルベルト・アインシュタイン博士が中心となり核兵器廃絶・科学技術の平和利用を訴えた宣言です。

署名者は11名で、ラッセル、アインシュタインの他にはフレデリック・ジョリオ＝キュリーや湯川秀樹などノーベル賞受賞者のそうそうたる面々が名を連ねています。

当時は、米ソによる水爆実験が激化し、中国やイギリス、フランスなども核実験を始めています。この状況に危機感を持った物理学者たちが、人類の存続のために核兵器を廃絶し、いかなる紛争も平和的な手段によって解決することを求めたのでした。

その後この宣言の要請を受けて、1957年パグウォッシュ会議が開催されることとなり、第1回をカナダのパグウォッシュ村で行いました。パグウォッシュ会議は全ての核兵器およびすべての戦争の廃絶を訴える科学者による国際会議で、日本からは湯川秀樹、朝永振一郎等が参加しています。日本では、1995年と2005年には第45回と第55回のパグウォッシュ年次大会が広島で開かれています。

パグウォッシュ会議は聞きなれない名前で、華々しく語られることはありませんが、戦後結ばれた軍縮・軍備管理条約の背景でこの会議の人的ネットワークや知的貢献が果たした役割は大きかったと評価されているそうです。

ところで、このパグウォッシュ会議ですが、当初は、発起人の思惑とは裏腹に核兵器は戦争の抑止力として必要なものとする科学者が多くいたようです。それでも1995年には1995年にはノーベル平和賞を受賞し核兵器廃絶が、大方の科学者の考えとなったそうです。

原爆投下直後の広島の惨状を記録したドキュメント映画などを見て、想像を絶する悲惨な兵器だと皆が認識した結果でもあります。それに至るには、多くの地道な努力と継続がありました。

7月10日 納豆の日

1992年全国納豆協同組合連合会が制定しました。7(なっ)10(とお)で「なっとう」の語呂合せです。

納豆は弥生時代には、すでに食べられていたらしいと言われています。弥生時代の竪穴式住居は、中に炉があって暖かく、床には藁や枯れ草が敷き詰められていました。そこに煮た大豆が落ちて発酵し、いつの間にか「納豆」になった偶然の産物だったと推測されています。

「納豆」という文字が最初に出てくるのは、平安時代に藤原明衡が著した『新猿楽集』で、語源は、寺の納所（台所）で作られたことに由来すると言われています。仏教の戒律によって肉食を禁じられた僧侶にとって、納豆は貴重なタンパク資源となっていたのです。

でもこの納豆は「寺納豆」で煮た大豆に麹菌をまぶして塩水で発酵させ乾燥させたものですから、黒い兔の糞のようなものだったようです。

ところで、納豆の日は 夏なのですが、納豆の季語は冬。その年に収穫した新穀の大豆で納豆を作っており、農家や武家では、正月納豆のために師走の 25 日に仕込むなんてところも日本中あちこちで見受けられた習慣だったそうです。納豆は 1 年中食べられる保存食ですから、季語だなんて思いもしませんでした。

芭蕉、蕪村、一茶も納豆を俳句に詠んでいます。子規も多くの納豆の句を読んでいます。

納豆売新聞売と話しけり

山僧や経読み罷めて納豆打つ

豆腐屋の来ぬ日はあれど納豆売

「ナット ナット～」と売り声を上げて、子供や寡婦の納豆売りが、町行く姿や、修行の僧侶が納豆を食べる様子など多く詠まれています。

大豆のしかも発酵食品とくれば、健康に大変効果的な食べ物ですね。太古から食べられていた納豆が日本人の健康を支え、また穏やかで勤勉な国民性を作り上げたと言っても過言ではないようです。

7月11日 セブンイレブンの日

昨日に続いて、これも分かりやすいですね。特にセブンイレブンを宣伝するつもりはありませんが、学生時代には

♪セブンイレブンいい気分♪ 開いててよかった～というCMをラジオで散々聞いた気がします。

セブンイレブンは1974年に東京都江東区に第1号店を出し、1975年に郡山の虎丸店で24時間営業を始め、翌年には100店舗を突破しました。ちょうどその頃、おっちゃんの学生時代には、破竹の勢いで店舗の拡大を図っていた頃だったようです。

コンビニの歴史を見てみれば、1971年7月のココストア、8月のセイコーマート、1972年のファミリーマートの実験店、この辺りが最初とされています。24時間営業は、セブンイレブンが最初のようにです。

コンビニでは、お弁当や日用品、事務用品の販売だけでなく、公共料金の払い込みや宅配の取り扱い、各種チケットの販売、コピーFAXサービス、ATM、はがき、印紙、お酒や一部医薬品の販売など、こんなことまで？と思えるサービスをしています。

それが24時間、開いているわけですから、今の世の中不便なんてことないようです。

ところでセブンイレブンの出店方式は「ドミナント方式」というひとつの地域に集中して出店していく（高密度多店舗出店）方式を採っています。一定地域に集中してお店があれば、認知度が上がり客に来店してもらう機会が増えると考えたやり方です。

これによって配送の能率をあげたり、地域色を出した広告展開をしたりできるそうです。でも逆に未だセブンイレブンのない県があります。

2013年6月末で、鳥取県、愛媛県、高知県、沖縄県、青森県には、セブンイレブンのお店がありません。コンビニで2番目に大きいローソンが47都道府県すべてに出店しているのとは異なるようです。

セブンイレブンのお弁当は、やっぱり他のコンビニより美味しいよね・・・セブンイレブンのない県、気の毒・・・？

7月12日 1730年 ジョサイア・ウェッジウッドが生まれました。

ジョサイア・ウェッジウッドはイギリスの陶芸家、事業家で、イギリス最大の陶器メーカー「ウェッジウッド社」の創設者です。「イギリス陶工の父」と言われています。また進化論で有名なダーウィンの母方の祖父にあたります。

ウェッジウッドの陶器といえば、精緻なレリーフのジャスパーウェア、クィーンズウェア、ブラックバサルトの名作や、つややかな白さと透明感に堅牢性をも兼ね備えた素地「ファインボーンチャイナ」が有名です。きめ細かく輝く素地に鮮やかに映える絵柄や洗練された多種多様なテーブルウェアは、多くのファンを魅了してやみません。

シンプルなのに、重厚で上品なものから繊細でゴージャスなものまで素敵な食器がたくさんあります。たいていは、お高いものですし、扱いが悪いと壊れてしまいますから気軽には使えませんが、こういう食器でお茶をいただいたり食事をしたりすれば、優雅な気分になること間違いなしですね。

このお皿に盛るにふさわしい料理をつくるのは・・・ちょっと難しいです。

7月13日 1942年厚生省が「妊産婦手帳」規程を実施しました。

これが後の、「母子健康手帳」の始まりとなります。「生めよ増やせよ」と言われていた戦争中に、妊産婦手帳の制度が発足しています。

これはドイツの病院で取り入れられていた母子手帳による妊産婦登録制度を基にして厚生省の瀬木三郎が日本用に改善を加えて導入したもので妊産婦や乳児の高い死亡率の改善を目的に配布されました。

これを持っていれば食糧不足の戦時下でも米など物資の優先配給が保証されたり、定期的な医師の診察を受けたりすることができました。さらに妊産婦手帳には出産申告書がついていて、これを提出することによってミルクを手に入れることができる仕組みになっていました。そのためにこの制度は日本全国、一気に広まりました。

この「妊産婦手帳」を用いて、世界で初めての妊産婦登録制度が発足しました。1947年から母子手帳、1966年からは母子健康手帳と名称が変わっています。

母子手帳の成果は、日本の乳児死亡率に如実に現れています。1950年には開発途上国並みの出生1000人あたり60.1であったのが、2006年には先進国でもトップクラスとなる2.6まで低下しました。

母子健康手帳は、日本に住んでいれば国籍に関係なく交付を受けることができます。

手帳には出産までの妊婦の健康状況やアドバイス・出生日や時間・出生した施設・病院の名称などを記録します。赤ちゃんの予防接種や成長の様子を記入し、保健指導の記録も記入します。そして幼稚園や保育園、小学校等に入るまで使われます。

日本独自に発展した母子手帳ですが、これを参考にする外国が増えているそうです。インドネシア、ベトナム、フィリピン、ラオス、バングラディッシュ、ケニアなどに普及しています。今後もメキシコ、パレスチナ、アフリカ諸国などにも普及活動が進められているそうです。こんなところにも、日本発の事業があったのですね。誇らしい気がします。

7月14日 内視鏡の日

2006年に内視鏡医学研究振興財団によって制定されました。「な(7)い(1)し(4)」の語呂合せになっています。

内視鏡と言えば、「ガストロカメラ GT-I」を開発した東大医学部とオリンパス光学工業の話は、有名ですね。(頭の中に中島みゆきの「地上の星」が流れます〜〜♪) この開発をモチーフに書かれた吉村昭の「光る壁面」は1980年4月〜9月に読売新聞に掲載され、その後新潮社から出版されました。

ところで、内視鏡の歴史は紀元前4世紀、古代ギリシャで医聖ヒポクラテスが活躍した時代にまで遡れるそうです。馬が交通手段だった当時は痔になる人が多く、そのために必要だったとか。また古代ローマの時代にはポンペイの遺跡から内視鏡の原型とされる医療器具が発掘されています。

内視鏡の開発には、十分な光源と軟性の管が必要でした。昔には、ドイツで剣を飲み込む大道芸人に硬質の内視鏡で試したなんて記録もあるようです。

ファイバースコープの開発によって、医師が直接体内を確認でき検査も簡単になったので、急速に普及しました。診断領域も食道、十二指腸、大腸、気管支、胆道や外科領域と大きく広がりました。そして内視鏡手術も出来るようになりました。

その後ビデオスコープが登場し明瞭な画像によって診断の精度が飛躍的に向上しました。またカプセル型の内視鏡の導入も増えつつあるようです。

2,30年前には「胃カメラ」を飲んだと言えば大変なことで、隣近所の話題になるほどでしたが、今では低侵襲の内視鏡手術も一般化し、ますます医療技術の進歩を享受できる時代になりました。

7月15日 1953年「小額通貨の整理及び支払金の端数計算に関する法律」が公布されました。

この法律によって、1953年12月31日を最後に1円未満の補助貨幣、小額紙幣（銭や厘）および1円以下の（1948年）から五円および一円と円単位の臨時補助貨幣が発行されるに至り、補助貨幣の定義が曖昧となっていた。（1円黄銅貨を含む）の使用が停止されました。

要は、銭や厘が使われなくなったということなんですけど、戦後の激しいインフレーションと、戦時中に使われていた紙幣の絵柄の問題などで、この頃貨幣が著しく変遷しています。

朝ドラの「梅ちゃん先生」だったか、「また、新しいお金なの？」といった台詞が出てきましたね。

戦争中は、金属は供出され鋳貨は発行されておらず、その代わりに紙幣が発行されました。ところが終戦になってみれば、軍が使用していた薬莢、弾帯、黄銅棒、信管など黄銅の材料が多量に存在することが判明しました。

そこで、造幣局は払い下げを受けて1948年、50銭硬貨、1円硬貨、5円硬貨などを黄銅で発行しました。1年ほどで5円硬貨のデザインが変わりますが、その変わったデザインの硬貨は今でも使うことができます。

補助貨幣と言うのは、金貨すなわち本位貨幣に対する位置づけで、日本では「銭（錢）」および「厘」のことでした。ところが、5円や1円の臨時補助貨幣が発行されたために、補助貨幣の定義が曖昧となってしまいました。

金属がないから紙で、軍艦の絵がいけないから鳩の絵に・・・軍の倉庫に真鍮があったとあって、硬貨を出してみたけど、世の中は大インフレ、しかも物不足。臨時とか補助とか混乱しますね。

当時の経済の混乱を推して知るべしです。

7月16日 1919年板垣退助が亡くなっています。

昨日の50銭札の肖像が板垣退助でしたね。その後1953年に発行された100円札の肖像も板垣退助でした。支払停止されたのが1974年ですが、有効券ですから今でも使えます。が、ダイソーで出したら若いバイトのレジ係りが、いかほど当惑するか想像に難くないですね。

大河ドラマの「八重の桜」で加藤雅也さんが好演していますが、板垣は幕末の志士や明治新政府の要人というよ

り、自由民権運動の主導者として有名です。

土佐藩の上士の家に生まれていますが、公武合体でなく武力倒幕を主張し、西郷吉之助など薩摩藩の志士とも交流がありました。戊辰戦争では、会津藩を攻撃していますが、維新後は会津の名誉回復のために努めており、それを感謝する会津人が大勢いたそうです。

征韓論が敗れ下野してから自由民権運動を始め、国会が開かれることが決まってから自由党を結成して党首になっています。伯爵を受けていたことと、自由民権運動の活動家であることなどから、帝国議会に議席を持つことはありませんでした。

内務大臣の経験がありますが、政界はあまり合わなかったようですね。

板垣という人は、組織とか建前で流されるのではなく、身分や藩や思想に関係なく、本来の人間を大切にした人なのでしょう。そして正しいものは正しい。いけないことは、いけない……。

「板垣死すとも、自由は死せず」の名言が生まれたといわれる岐阜遭難事件の犯人に、特赦を申し出たり、伯爵も何度も辞退した結果だったり、家屋敷を売り払い、私財をなげうって自由民権運動をしていたとか、数々のエピソードからうかがえます。

ひげだけが立派で採用されてわけではなく、お札の肖像になるだけの人のようですね。

7月17日 1903年竹山道雄が生まれました。

竹山道雄は評論家、ドイツ文学者と紹介されますが、特に「ビルマの堅琴」の作者として有名です。ドイツ文学者としては、アルプスの少女ハイジ、若きウェルテルの悩み、ツァラトストラかく語りきやシュヴァイツァーの自伝などを翻訳しています。

ビルマの堅琴は1947年に発表され、翌年に毎日出版文化賞を受賞しました。また2度にわたって映画化されていますので、ご覧になられた方もおられるでしょう。

太平洋戦争のビルマ戦線といえば、インパール作戦の失敗により多くの兵士が飢えと病で亡くなった、非常に厳しい状況だったと聞いています。その中で亡くなった戦友を偲んで堅琴を弾き、祖国に帰ることを拒む水島上等兵の姿には心を打たれました。

「埴生の宿」のメロディーがなんとも切なく感じられたものです。

実際にビルマで捕虜になり収容所で合唱の指導をしていた僧侶がいて、その人がこの小説のモチーフになったといわれています。

ところで 竹山道雄という人は、戦前には全体主義や軍部の批判を貫き、戦後には社会主義を賛美するスターリニズムに対し疑念を表明しています。なかなか気骨のある日本人だったようです。

また「日本は死については実に豊かな国だった。むかしの日本人は死については大家だった」というようなことも書いているそうです。もっと、この人について知りたくなりました。

7月18日 1918年ネルソン・マンデラが生まれました。

現在、危篤状態で意識がない状態が続いているのではないかとされているマンデラ氏ですが、南アフリカのズマ大統領はマンデラ氏の誕生日を祝う準備を国民に呼びかけているそうです。マンデラ氏は第11代南アフリカ共和国大統領です。

マンデラ氏は、反アパルトヘイト運動で反逆罪として逮捕され、27年間に渡り刑務所に収容され、釈放後、アフリカ民族会議（ANC）の副議長に就任しました。

アパルトヘイト撤廃に努め、1993年にはノーベル平和賞受賞しました。1994年4月には南ア史上初の全人種参加選挙が実施され、マンデラ氏が大統領に就任したことでアパルトヘイトが撤廃されました。

マンデラ氏は民族の和解と協調を呼びかけ、またの白人・黒人との対立や格差の是正を目指しました。黒人同士の間を解消したり、不況を回復するために復興開発計画（RDP）を公表したりしています。

ところで、マンデラ氏が刑務所に収容されていた時の刑務官、ジェイムズ・グレゴリーが書いた手記『さようなら、バファナ』映画化されたのが「マンデラの名もなき看守」です。

この映画では、刑務官が次第にマンデラに対して心を開いていく様子や、それぞれの身の上で起こる悲しい出来事乗り越えていく様子が感動的に描かれています。

マンデラ氏の名言には「刑務所に入らずして、その国家を真に理解することはできない。国家は、どのように上流階級の市民を扱うかではなく、どのように下流階級を扱うかで判断されるべきだ」

「勇気とは恐怖心の欠落ではなく、それに打ち勝つところにあるのだと。勇者とは怖れを知らない人間ではなく、怖れを克服する人間のことなのだ」などたくさん残っています。

27年間も拘束されては、希望など持てなかったろうと思います。自分のすべきことは・・・やりたいことは・・・たくさんあったことでしょう。やるせない思いでいっぱいだったに違いありません。

しかし、マンデラ氏の持つオーラというか、囚人でありながらも周りの人により影響を与え、仲間を作っていたのですね。親族間で揉め事があるのは皮肉なことなのですが、彼自身は国家を平和と調和に導いたと言えます。

2009年に国連がネルソン・マンデラ・デーとして制定しました。マンデラ氏がアパルトヘイト政策と闘った「67年」を記念し、世界中の人々に対して誰かの幸せのために「67分」の時間を費やすことを提案しています

7月19日 2000年 二千円紙幣が発行されました。

沖縄サミットと 2000 年のミレニアムを記念して小渕総理大臣の発案で、森内閣の時に発行されました。発案の小渕総理はこの年の 5 月 14 日に亡くなっており、本物の二千円札を見ることは出来ませんでした。

あまり普及していなかった感じですが、ピーク時には 5 億枚が流通していたそうです。現在の流通量は 1 億枚程度で、紙幣全体の 1%未満だそうです。ところが、沖縄は守礼門が描かれていることや 20 ドルを使う習慣があったことからか、特に多く流通し、その数 4000 万枚を超えているそうです。

沖縄では二千円札の普及のために琉球銀行の職員の中から「二千円札大使」に任命された人がいるのだそうです。沖縄に行けば、二千円札にお目にかかれるかも知れません。

せっかくの紙幣ですが、二千円札は日銀の金庫に在庫がたくさんあるそうです。それで、04 年度から 10 年連続で製造が見送られています。使いにくいとか、なじまないとか言いながら、不良在庫(?)を抱えているのもいかなものかと……。

日本人には使いにくいと感じる 2 のつくお札ですが、外国ではなじみのあるものだそうです。アメリカでは 20 ドル札が最も多く流通しているのだとか。

ところで日本の紙幣の中で、最も枚数が多いのは……？

1 万円札で 76 億 213 枚 (63.3%)、次は千円札で 37 億 4610 枚 (31.2%)、5 千円札 5 億 5608 枚 (4.6%) となっています (2013 年 2 月末)。

自販機や ATM で使えないなどの不便もありますが、タンスの肥やしはもったいない気がしますね。といいながら、おっちゃんも使わずに取ってある二千円札がありました！聖徳太子や岩倉具視と一緒に……あれれ～～

7 月 20 日 1969 年「アポロ 11 号」が、月面着陸に成功しました。

協定世界時の 20 時 17 分に「静かの海」に着陸しました。日本時間では 21 日の早朝 5 時 17 分にあたります。

船長のアームストロングとオルドリン飛行士の二人が月面に降り立ちました。アームストロング船長の「これは一人の人間にとっては小さな一歩だが、人類にとっては偉大な飛躍である」は、とても有名になりました。オルドリン飛行士の月面につけた足跡も、よく見かける写真です。

日本でも、このニュースは大きく報道されたと記憶しています。さほど鮮明ではない画像と重力が軽いために飛ぶように歩く姿、真っ暗な宇宙など現実とは思えない不思議な感じでした。当時の科学の粋を集め、莫大な費用を要し、そしてアメリカの威信をかけたプロジェクトでした。それを理解するには、おっちゃん幼すぎましたけどね。

月面から離陸するのが初めての試みだったために、もし失敗して 3 人の飛行士が亡くなった場合、ニクソン大統領は「追悼の言葉」を事前に準備していたのだそうです。そう考えれば、アームストロング船長の名言は、一体いつから考えていたんだろう……？

ところで、アポロ 11 号が採取した月面の物質、いわゆる「月の石」は、翌年開催された大阪万国博覧会で展示されました。アメリカ館は、もちろん友好の証ということで日本館でも一部が展示されていました。

11 号が採取したのさえ、たった 22 g でしたので友好の証は、まるでゴマ粒・・・
ほんのちょっとでも分けてもらえたから、これってすごい友好の証だったのか？ゴマとも石とも分からない、
仰々しい展示物を見ながら、やっぱり不思議な感じだったのを覚えています。

さて、今 アメリカが日本に「友好の証」を分けてくれるとしたら・・・さて何グラム？ってか、あるのか？

7月21日 日本三景の日

2006 年日本三景観光連絡協議会が制定しました。由来は、日本で始めて日本三景を記した『日本国事跡考』の著者、林鶯峰の誕生日に因みます。

林鶯峰は、林羅山の三男で、日本史に通じ父羅山とともに『日本王代一覽』、『本朝通鑑』、『寛永諸家系図伝』などを著したり江戸幕府編纂事業を主導したりして近世の歴史学に大きな影響を与えた人です。

『日本国事跡考』の中で、松島、この島の外に小島若干あり、ほとんど盆池月波の景の如し、境致の佳なる、丹後天橋立・安芸巖島と三処の奇観となすと書いており、その後、日本全国に日本三景が知られるようになったようです。

日本三景はいずれも 1952 年 11 月 22 日に特別名勝に指定され、宮島は 1996 年世界遺産に登録されました。どの名所も海があり、対照的な緑が妙をなし、有名な寺院や神社があり、美味しい海産物があります。最近では、いずれも温泉の開発もすすみ、年間に訪れる観光客は 300 万人を数えるようです。

日本三景を雪月花にあてはめれば、「雪」は天橋立、「月」は松島、「花」は紅葉を花に見立てて宮島が相当するのだとか。神々の時代からの歴史があり、詩歌にもたくさん詠まれ、どの絶景も日本人の風情ここに極まれりって感じですね。

こうして、いろいろ調べてみながら、いつも「やっぱり、日本っていいところだよね・・・」と思うのです。

7月22日 下駄の日

夏祭りが盛んに行われるこの時期、浴衣に下駄は、風情があるもの・・・

1991 年に全国木製はきもの業組合連合会が制定したそうです。昔は、男物の下駄は 7 寸 7 分、女物の下駄は 7 寸 2 分と決まっていたので、7 月の 7 は下駄の寸法から、また 22 日は下駄の歯形で、雪道を下駄で歩くとその跡が「二二」に見えることが由来だそうです。

しかし、最近では下駄も国内産が激減し、全国木製はきもの業組合連合会は解散しているようです。

そもそも下駄は、昔、道路事情がよくない頃、雨でぬかるんだ道を歩くために重宝されており、普段は、ぞうりを履いたものでした。ですから下駄は正装ではありません。終戦直後の話を聞けば、物資が極端に欠乏していたこともあり、はだしで学校に通う子供も少なくなかったとか。

農家の子供であれば、わらじを編んで履くことも出来ました、都会の子供はそうもいかなかったようです。ですから、雨が降ったときや寒いときには下駄を履いていたと聞きます。石ころだらけの道を、まさにカラシコロシと鬼太郎よろしく歩いていたようです。

さて、最近の下駄事情と言え、手軽な値段のものはほとんどが中国製で、ごく一部が職人さんの手仕事として存在するようです。会津桐下駄、志度桐下駄、ねずこ下駄など、伝統工芸として残っている名産地があるようです。

福山市松永町は、かつては下駄の有名な産地で、日本のシェアの6割を占めていたと言われ、日本はきもの博物館もあるのですが、もうほとんど作られていないとのこと。普段の生活で、下駄を履くことはないし、アスファルトの上を下駄で歩くと歯がちびてもったいないです。今は裏にゴムを張ったものが主流ですね。

そう言えば、「下駄履きご遠慮ください」と書かれた廊下がありました。確か高校の職員室の前！今どき下駄なんて履く人いるか？と思った覚えがあります！！

足の第1指と第2指の間に鼻緒を挟み、素足で歩くことは健康にもよいと聞きました。裏にゴムが張ってあれば、足音がうるさいこともないでしょう。たまには下駄を履いて歩いてみては？

7月23日 大暑

二十四節気の第12で太陽黄経が120度のときを言います。夏の土用が大暑の数日前から始まり、大暑の間続き、小暑と大暑の一か月間が暑中で、暑中見舞いはこの期間内に送るようにします。1年で最も暑い頃です。

ところでヨーロッパの特にドイツ、フランス、イタリアなどでは、7月23日から8月23日までの期間を「犬の日・dog days」と呼ぶそうです。おおいぬ座のα星シリウスが太陽と同じ方向に現れる、この時期は猛暑が続き人も家畜も体力が弱まり病気になりやすいのですが、それはこの星のせいだという言い伝えがあるそうです。

東洋の陰陽五行では7月中旬から8月上旬の、ちょうど酷暑の頃を三伏（さんぷく）と呼びます。日本ではあまり聞かないかもしれませんが、お隣韓国では三伏にはサムゲタン、ユッケジャン、ポシントンを食べて精をつけるそうです。

土用に日本でうなぎを食べるようなものですが、このポシントんがいわゆる犬鍋というやつです。

三伏という文字には犬が付くし、それに関係があるのかないのか、犬鍋なのですよ・・・。

漢字研究の大家、白川静氏によれば、「犬」は神へのささげ物のうち最も貴いものだったと言います。その証が「猷」。嗅覚、聴覚に優れた犬は、人間が気づかない悪霊にいち早く気づき、守ってくれるものだと信じられていました。そこで犬の肉を焼いて、その匂いは神に捧げるのにふさわしいと考えていたのだそうです。

犬は土地を清めるために地中に埋められたり「伏」、焼かれたり「燃」したのだそうです。神に捧げた犬の肉を儀式の後に人々がありがたく頂いたことは想像に難くないです。

ポシントンが美味しいかどうか、夏ばてに効果的かどうか、食べる勇気があるかどうかは別としても、漢字を見る限りでは犬は昔から食べられていたのだらうと想像できるのですね。

7月24日

1911年アメリカの探検家ハイラム・ビンガムによってマチュ・ピチュ遺跡が発見されました。

「空中都市」「インカの失われた都市」などと呼ばれるマチュ・ピチュは、アンデス山脈のウルバンバ溪谷沿いの標高2,280mの頂上にあります。

山の頂上にあるので、麓からはその存在が分かりません。インカの人々がスペイン人から逃れるためか、はたまた復讐の作戦を練るために作ったのか、太陽を観測し神を奉る場所だったとか、インカの王族、貴族の避暑地だったとかいろいろの説があるようです。多くの研究がなされていますが、まだまだ謎に包まれた場所には違いありません。

マチュ・ピチュは自然遺産であるとともに文化遺産でもあるというユネスコ世界遺産の中では珍しい複合遺産で、一度その美しさを知ったら虜になるほどだそうです。

1908年、イェール大学で南アメリカの歴史を教える講師だったハイラム・ビンガムは、サンティアゴの学会に参加した後、ペルーに立ち寄り、オリャンタイタンボというインカ時代の都市を見学して強い関心を持ちました。1911年にはイェール大学ペルー探検隊を組織してマチュ・ピチュを発見するに至りました。

ハイラム・ビンガムも、インディー・ジョーンズのモデルの一人と言われているそうです。恐竜の卵の化石を発見した人もインディー・ジョーンズのモデルの一人でしたね。

虜になるほど美しい風景とは！見てみたいものですね。しかしペルー遠いし、標高2,280mとは、体力的に大変そうです。

7月25日 1980年 ルービックキューブが日本で発売されました。

ルービックキューブと言えば、各面 $3 \times 3 = 9$ 個の色の付いた正方形で構成されている立方体。くるくる回しながら、各面の色を揃える玩具です。

これはハンガリーの建築学者で、ブダペスト工科大学教授だったエルノー・ルービックが1974年に考案したもので1977年にはハンガリーの玩具製造会社「ポリテクニカ」から発売されました。その後、アメリカのアイデアル社が販売権を獲得し、発明者の名前を冠した「ルービックキューブ」の名前で世界的に発売されました。

日本ではツクダオリジナルから発売されましたが、それ以前に朝日新聞には数学者に注目されるパズルとして紹介されており、1980年から1981年には日本中でルービックキューブが大ブームとなりました。世界中で3億個が販売されているそうです。

現在では、正四面体のピラミックス、正十二面体のメガミックス、正八面体や正二十面体、八角柱、1×3×3の立方体の形などのパズルがあるようです。

結局、うまく全部の面の色を揃えて完成することが出来なくて、そのままになったルービックキューブが、確か・・・どこかにあったはず。パソコンで調べれば攻略方法がたくさん載っています。しかし、攻略法自体が理解できないかもしれない。1回ぐらいは、全面揃えてみたいものですが～～。

7月26日 1939年 辺見じゅんが生まれました。

歌人でノンフィクション作家として有名ですが、角川春樹の姉としても知られています。1984年『男たちの大和』で新田次郎文学賞を受賞。1989年、『収容所からきた遺書』で講談社ノンフィクション賞、翌年には大宅壮一ノンフィクション賞を受賞しています。

角川一族について書いた私小説「花冷え」や童話・詩歌まで幅広いジャンルの作品を残しています。

中でも映画化された『男たちの大和』は、興行収入51.1億円観客動員数400万人で2005年の邦画興行収入1位となっています。ご覧になられた方も多いことでしょう。見ごたえのある作品でしたし、原作にも忠実に作られていると言われています。

この映画にまつわるエピソードを、ひとつ。

少年兵のエキストラを募集したところ、茶髪にピアスの「ごくあたりまえ」の若者たち1500人以上の応募があったそうです。この普通の少年たちが、選考が進むにつれショートカットになり、最終的に採用されたエキストラ百数十名は、撮影が始まると、一ヶ月ほどの実戦訓練で、演技もきびきびとし、顔つきまでが変わったそうです。

態度が立派になったばかりでなく、戦争で日本人が失ったものは『道徳』という精神的な価値であることに気づいた若者がいたそうです。

「おまえら、まるで生まれ変わったようだな」とのプロデューサーの言葉に、彼らは口々にこう答えたそうです。「自分と同じ年の人が、こんなふうにならなくていいのかもしれない」と・・・

また、この映画の名言のひとつに「敗れて目覚める、それ以外に日本が救われる道はない」と言うのがあります。戦後68年、日本は何に目覚めて、どのように救われたのでしょうか？それとも・・・

また、終戦の8月を迎えます。今一度、考えなくてはならないことのように。

7月27日 1953年朝鮮戦争の休戦協定が結ばれました。

1950年6月25日に北朝鮮軍が北緯38度線を突破し戦争が勃発しました。28日には北朝鮮軍がソウルを占領しました。

世界には分断国家といわれるところはいくつかありますが、北朝鮮の政治姿勢や外交が異様なため、何かと問題が多いように感じます。

朝鮮戦争は終結ではなく、休戦のまま現在に至りますが、北朝鮮は先ごろ、一方的に休戦協定を破棄しました。また7月27日は戦勝記念日と称しているそうです。

韓国の映画やドラマにも朝鮮戦争を描いているものや、その後の分断国家の悲哀やスパイ出てくる話があります。同一民族で殺戮をし、交流さえ出来なくなるなんて考えにくいことです。

太平洋戦争後、日本の敗戦を機にソ連軍が朝鮮半島に侵攻したこと、また朝鮮戦争の特需が日本の戦後復興に影響があったこと、自衛隊の前身である警察予備隊は、朝鮮半島に出動した在日米軍の任務を引き継ぐものとして創設されたこと、朝鮮海で掃海の役割を担ったこと、どれも歴史の皮肉としか言えません。

韓国映画「ブラザーフッド」もそんなひとつです。日本でもよく知られた俳優が出演していますが、興行収入は今ひとつでした。歴史的背景が理解しにくいことが原因のひとつかもしれません。

7月28日 1880年大原孫三郎が生まれました。

クラボウ、クラレ、中国銀行、中国電力、大原美術館、倉敷中央病院、倉敷商業高校、大原奨農会農業研究所（現・岡山大学資源生物科学研究所）、倉敷労働科学研究所、大原社会問題研究所（現法政大学大原社会問題研究所）石井記念愛染園、資源生物科学研究所などの創設にかかわり、岡山を代表する実業家であり偉人です。

孫三郎は、親の代から紡績業を営む倉敷の名家に生まれました。身体が弱いこともあってわがまま放題に育てられた影響もあって、1897年東京専門学校（後の早稲田大学）に入学してからも放蕩生活を続け、講義にもほとんど顔を出さず、挙句の果てに現在の金額で1億円もの借金を抱えることになりました。

父親に、倉敷に戻るように言われ、帰郷の後謹慎生活を命じられました。また、この東京での借金を清算するために出向いた姉婿が、その際に急死し孫三郎は大いに反省したようです。

また、石井十次と知り合いになり、彼の活動に感銘を受け、社会福祉事業に興味をもつようになりました。

倉敷紡績の工員たちの多くは初等教育も満足に受けていないことに驚き、働きながら勉強できるよう倉敷商業補習学校（現在の倉敷商業高校）を設立したり、学びたくても資金がない地元の子弟のために大原奨学会を開設しました。

後に大原美術館の礎となるコレクションを集めた洋画家・児島虎次郎もこの奨学生でした。

1914年には大原奨農会農業研究所（現・岡山大学農業生物研究所）を設立し、運営のために自らの土地200町歩を拠出しました。この研究所で岡山名産となるマスカットや白桃が開発されました。

労働環境を改善する研究所を作ったり、従業員だけでなく地域に開かれた病院を作ったり、その先見の明にあふれる多くの業績を残しています。それもそのはず、孫三郎の口癖は「儂の目には10年先が見える」だったそうです。

孫三郎は日記に「余は余の天職のための財産を与えられたのである。神のために遣い尽くすか、或いは財産を利用すべきものである」と書き残しています。

孫三郎がクリスチャンだったからなのか、もし日本中の金持ちがみんな孫三郎のような志を持っていたとしたら、日本はユートピアですね。

7月29日 1907年江田三郎が生まれました。

昨日に続いて岡山ゆかりの人物です。福渡に生まれ、当時日本の統治下だった京城(現在のソウル)の善隣商業学校で学びました。

朝鮮で日本人がいかにか横柄な振る舞いをしているかに気づき、植民地支配について勉強するため、神戸高等商業学校（現神戸大学）に進学しました。

労農派のマルクス主義に興味をもち社会主義についてさらに学ぶために東京商科大学（現一橋大学）に進学しましたが、中退して岡山で農民運動の指導者になりました。

1937年に県議会議員に当選しますが、翌年共産主義者、社会主義者を検挙する人民戦線事件に連座して服役することになります。

戦後、日本社会党に入党し左派の活動家として頭角をあらわしていきます。

彼を一躍人気者にしたのが「江田ビジョン」と言われるもので「日本国民の暮らしをアメリカの水準にし、徹底した社会保障はソ連並みに、議会制民主主義はイギリスのように、そして日本国憲法の平和主義を貫く」ということでした。

当時の社会党は日本共産党より過激だといわれていましたが、江田三郎は、まず資本主義・議会制民主主義の枠内での改革を進めることを主張し、労組に組織されていないような中小企業労働者らも参加できるような政党であるべきと考えていました。

左翼政党の政治家でありながらもスターリニズムに否定的で、北朝鮮の金日成のことは「個人崇拜と天皇制の悪しき部分を足したものだ」と嫌悪していたそうです。

それゆえに革新系政治家の中でも群を抜いた国民的人気を誇っており、田中角栄は江田の国民的な人気を警戒していたそうです。

その後、社会党を離れ、菅直人とともに社会市民連合を結成し、参議院全国区選挙への立候補を表明しましたが、1977年5月22日志半ばで亡くなりました。草葉の陰で、息子の江田五月や当時の盟友菅直人が所属する民主党の現在の迷走振りを、苦々しい思いで見ているに違いないです。

7月30日 1913年新美南吉が生まれました。今年、生誕100年

愛知県知多郡半田町（現・半田市）岩滑（やなべ）で生まれました。作品の多くは、故郷の半田市岩滑新田を舞台としています。

「ゴンギツネ」「手袋を買いに」「おじいさんのランプ」「デンデンムシノカナシミ」など切なくてちょっと悲しいけれど、心温まる数多くの童話、小説、詩、童謡、戯曲などを創作しています。

幼くして母を失い、養子に出されるなど寂しい幼少期を送った新美南吉は、中学生時代から創作を始め、「ごんぎつね」は弱冠18歳で創作したものです。

病に苦しみ、作家としての成功を前に29歳で世を去りました。

新美南吉は29年7ヶ月の短い生涯にたくさんの日記や手紙を書き残しています。そこには孤独と病苦に悩みながら、文学への夢と隣人達への愛を追い続けた生き様が綴られています。

「手袋を買いに」の最後に、母狐がつぶやきます。「ほんとうに人間はいいものかしら。ほんとうに人間はいいものかしら」は、彼自身の言葉に他なりません。

また美智子妃殿下が1998年第26回IBBYニューデリー大会（1998年）基調講演で「デンデンムシノカナシミ」に触れていらっしゃいます。

「かなしみは だれでも もって いるのだ。わたしばかりでは ないのだ。わたしは わたしの かなしみを こらえて いかなきゃ ならない」

子供の頃には気づかなかったけれど大人になるにつれ、生きていくということは楽なことではないのだという、何とはない不安を感じることもあったけれども、このお話は嫌いではなかったと言うようなことを話されています。

誰しも悲しみを背負っているということは、生きていく勇気を与えてくれるのかもしれない。

南吉の日記1942年7月3日に「あぢさいにカンナが咲いている庭を白い蝶が一つちらちら遊んでいて静かである。わずかこれだけの平和をまもらんために、数万の同胞は血を流してたゞかはねばならぬのである。人間は何としあわせうすくうまれたものであらうか」と書かれています。

翌年3月に亡くなっている南吉は、その後日本がどのように悲惨な戦禍を受けるか知らないままでした。希望や親兄弟をなくした子供たちに、どんなお話を聞かせたくれたらうか・・・聞いてみたかったですね。

7月31日 1979年松下電子工業が真空管の生産を終了しました。

それによって日本国内での真空管生産がなくなりました。真空管と言えば、昔はレジオやテレビには真空管が使われていました。

テレビのスイッチを入れても、しばらくはウンともスンとも言わず、しばらくすると音が聞こえてきて、そのあとからじわ〜と映像が現れてくるのでしたね。

ブラウン管も真空管の一種ですけど、昔のテレビの木製の箱の中には、いく本もの真空管が突っ立っていたものです。真空管は熱を持つので、木製の箱には、穴がたくさん開いていたように記憶しています。だから、中がよく見えていました。

スイッチを切っても、いつまでも画面の中央に明るい点が残っていたものです。

あ〜、そんなの知ってる人って何歳以上なの？！

そのうち、カラーテレビが普及し、真空管も進化しましたが、トランジスターに変わっていきました。トランジスターも、小型のICに替わり、LSIになっていきます。

そうすると、もうテレビとかラジオのレベルではなくて コンピュータの世界、演算速度がいくらとか、小型化がどのくらいすすんだとか、もう木の箱の中の何本かの真空管の時代とは比べ物にならない・・・。

真空管のテレビや、その時代の電気製品は、故障すると電気屋さんが来て修理してくれました。多分、今より品質が悪かったせいもあるけれども、仕組みも簡単、部品を交換すれば何とかなっただってことですね。

今の電気製品は、なかなかそうはいかない・・・。古いものは省エネじゃないとか、地デジじゃないとか、部品がないとかで、新しい物に買い換えるしかないのですね。特にひどいのがコンピュータ！機能的には全然問題ないのに、OSが古くて使えなくなるなんて。XP、どうしよう。